

どんなことがあつても冷静に

対象作品／ダン・ブラウン著『天使と悪魔』角川書店

弘前市立第三天成小学校

赤川伴弥

本との出会いは、図書室で読書感想文用の本を探していたときのことです。どの本にしようか探していく目に入ったのは、『天使と悪魔』という本でした。その本を手に取り、最初のページを読んでみるととてもおもしろい内容だったので、借りて読んでみようと思いました。

その気になる内容は、天国から研修にきた天使と、地ごくから成績不しんでおい出された悪魔が、けい事のマンションにやつてきたところから始まります。そこで殺人事件が起きてしまい、けい事がはん人あつかいされてしまいます。その事件を解決したいと考えた天使が、正反対の悪魔とコンビを組んで事件を解決していくお話です。

ぼくは読んでいくうちに、はん人あつかいされてしまったけい事のことがとても心に残りました。なぜかというと、そのけい事はたとえどんなことが自分にふりかかってきても、落ちこんだりせず冷静に考えて行動するからです。ぼくがもしけい事で同じ立場であつたなら、あわててしまい冷静にならなかったかもしれません。ぼくは、この本から、落ちついて冷静に考え

れないと思います。だからぼくは、この吉原じょうすけい事がとてもかつこいいと思いました。

一番心に残った場面は、十二番目の『現れた顔』です。その場面は、吉原けい事の心の強さが出た場面です。親しい人が殺人をしてしまったことを知ったとき、ふつうならショックをうけて落ちこむはずなのに、吉原けい事は、その悲しみをいつさい出さずに事件を解決していくからです。ぼくにはまねできません。でもこの場面から学んだことは、どんなことがあつても、あわてずに冷静でいた方がよいということです。吉原けい事のようにぼくも冷静な行動をしたいと思いました。

吉原けい事の行動は、自分の生活の中にもあると思います。何かむずかしい問題を解こうとしたとき、いくら考えても分からず、あせってしまうことがあります。それでも、吉原けい事のように落ちついて冷静に考えて解くと正解たつたこともありました。ぼくは、この本から、落ちついて冷静に考え

て行動する大切さを学びました。これからも吉原けい事を見

習つて生活していくたいと思います。